

# 農村ボランティアが各地で活動中!

一県下各地でボランティアと地元の人々が共に汗を流しています一

ふるさとむら

棚田交流人

ご家族・お友達のお誘いをお待ちしております!

今年四月にボランティア支援事務局がみどり公社に移ってから、六ヶ月が過ぎました。

これまでふるさとむら活動として西新宿、笹路、平木、金子の各地区にバスを派遣しボランティア活動を支援してまいりました。また、棚田では生栖・小野豆の二地区で活動を支援してきました。

県下には、棚田地区として二十四地区、ふるさとむら地区として四十二地区がボランティア活動の受け入れ地区として登録されていますが、活動が継続されている地区は三分

# ふるさと交流だより

発行者

農村ボランティア  
支援事務局

(社)兵庫みどり公社  
楽農生活部 交流課  
〒650-0004  
神戸市中央区  
中山手通 7-28-33  
電話 078-361-8119  
FAX 078-361-8128



の一にも満たない状況で続けて活動してくれる会員の確保が課題となっています。県民共有の貴重な財産である棚田を守り、農作業を通じて農村との交流を図るボランティアを募集します。農村が貴方の出番を待っています。

## ソバ刈りのお手伝い募集

八月十七日に蒔いたソバの花も終わり、着実に実がついてきました。そこで十一月十一日(土)にソバ刈りと第二回目のボランティア研修を行います。

秋晴れの清々しい空気の中で楽しい農作業を体験してみませんか。

日時 十一月十一日(土)

場所 ふるさとむら平木地区(加東市)

研修内容 ソバの刈り取りほか

交通手段 集合場所 三宮観光バスステーション(サンパル東側)

(送迎バス) ション(サンパル東側)

集合時間 午前八時三十分

解散時間 午後五時頃三宮

先着五十名(会員優先)

申込先 農村ボランティア事務局

TEL 〇七八―三六一―八一九

FAX 〇七八―三六一―八二二八

十月二〇日(木)

雨天決行 軍手・長靴は各自

用意してください。昼食は地元で用意してくれています。

当日の連絡先

〇九〇―二五九三―五五六七

## 北播磨ニュース

その他

申込締切

申込先

募集人数

集合時間

解散時間

交通手段

研修内容

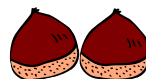
場所

日時

その他

丹波ニュース

吹地区  
ふるさとむら  
会員募集



ふるさとむら吹は本年度に発足したばかりで、あわただしく半年が過ぎました。六月に黒大豆の植付け、その後、土寄せ・支柱たて薬剤散布等の作業を行ってきました。今後の作業としては十月の味祭りの時に枝豆の収穫、販売を行い、十二月の収穫までに葉落とし刈取り・乾燥・脱粒調整等の作業をする予定です。

また、栗については六月と九月に栗園の下草刈りを行い、十月に収穫、販売の予定です。その後、来年のための補植・剪定作業を行います。

当地区は発足時には二十七名の会員登録を頂きましたが、実際の作業時には六人前後の参加でとても寂しい限りです。このままではふるさとむらの活動に支障を来たす事も懸念されます。



当地区は、交通の利便性も良く丹波篠山という観光地にも近く、大変良いところだと思います。是非あなたもふるさとむらの会員となつて丹波篠山の特産物を一緒に作ってみませんか。

世話人 波々伯部 富一

丹波黒大豆の郷  
「上小野原ふるさとむら」 応援団募集

十月になると枝豆の収穫

当地区は兵庫県のほぼ中央、篠山市の旧今田町内にあり、近くには立杭焼や薬師温泉ぬくもりの里などもあり、伝統文化と自然が豊かに共存しています。

さて、ふるさとむら活動ですが、主に丹波黒大豆の作付けから収穫までの一連の作業で、六月の播種に始まり、夏の土寄せや施肥、倒伏防止に病害虫防除作業など、かなりの労力が必要です。



十月になると枝豆の収穫が始まります。中旬には十万人の人が訪れる丹波立杭焼の陶器祭りが開催され、特産品として高い評価を得ている黒大豆の枝豆を始め、地元の農産物に人気が集まります。忙しい十日間ほどが過ぎると、収穫祭です。みんなで汗して作った黒大豆の枝豆をその場で茹でいただくわけですが、またその味は格別です。枝豆が終わると、畑の緑も黄色から茶色に色づき始め、十一月から十二月にかけて葉むしりと刈り取り、乾燥、脱粒、選別などの作業を行い、正月用の黒豆が出来上がります。

年が明けて二月には、椎茸のほだ木づくりや菌の植付けを計画しています。年度末には薬師温泉で慰労会を行う予定です。皆様方のご協力、ご参加をお待ちしております。

世話人代表 前中 繁男

丹波ニュース



# 棚田がいま危機に瀕しています



田和地区は、西播磨天文台公園で有名な大撫山西麓に位置し、累々たる石垣で形成される美しい棚田のふるさとです。

この地で交流人たちは、棚田の景観を守るため毎月第四日曜日に集まり、畦畔の草刈や農園での野菜の植付けと手入れを行っています。畑で収穫したジャガイモ、玉ねぎ、白菜、大根などは会員たちで分けて持ち帰り、嬉しいおみやげになります。



地元との交流会は、五月の田植えや蛍観賞、七月の夏祭

り、九月の稲刈り、十二月には餅つき大会などが催されます。

行事には村の人たちは総出、地元の幕山小学校生徒達、佐用町長や関係職員、交流人と家族のみなさんが参加して賑やかに盛り上がります。

しかし、最近参加者が少なくなり、八月の参加者は僅か七名で、このままではこのすばらしい棚田を維持することが難しく、棚田景観保全ボランティアとしての本来の活動が覚束なくなっています。

この貴重な財産を守り、後世に残すために継続的な活動を志す棚田交流人の参加をお待ちしております。

田和地区交流人代表

西村欣也

今回、ご紹介した三地区ともボランティアを大募集しています☆興味のある方は事務局までご連絡ください！



(レストラン棟)

## 兵庫楽農生活センターが本格オープンします！！

平成18年11月11日(土)  
神戸市西区神出町でお待ちしています☆

### 楽農生活ニュース

食と農を楽しむ楽農生活の実践拠点となる「兵庫楽農生活センター」が、いよいよ本格オープンします。

広さ約十四ヘクタールの敷地には、農作業体験ができる野菜畑、水田、果樹園等のほか、地産地消をテーマとした「レストラン」、ジャムや菓子作りが体験できる「加工施設」、キノコの栽培体験ができる「きのこ館」があります。

十一月十一、十二日には、野菜の収穫体験、餅つき大会、試食会などの楽しいイベントのほか、地元産の新鮮な野菜の直売なども予定しています。ぜひ、ご家族で楽しい一日をお過ごしください。

兵庫楽農生活センターのオープンに伴い、事務局も移転します。  
一〇月二三日以降のお問い合わせなどはこちらへお願いします。

兵庫楽農生活センター 交流課  
〒六五〇一―二三〇四  
神戸市西区神出町小東野三〇―一七  
電話 〇七八―九六五―二六五一  
FAX 〇七八―九六五―二六五三



# ボランティア保険のご案内



農村ボランティア活動へのご参加、ありがとうございます。  
 今年度からボランティア支援事務局が(社)兵庫みどり公社となり、ボランティア保険の取り扱いが変更されました。  
 当社が主催する研修会等(今年度は九地区開催していません)に参加いただく場合に限り、当社が保険加入の手続きをさせていただきます。今後、当社が主催する研修会以外の活動に参加される場合、保険は個人で加入していただくこととなります。  
 当社は下記の兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」に加入しています。個人でも簡単に加入できますので、オススメです。内容は以下のとおりです。参考になさってください。

## 兵庫県ボランティア・市民活動災害共済

- |   |      |   |
|---|------|---|
| 1 | 保険会社 | 三井住友海上火災保険株式会社                                    |
| 2 | 保険料  | 1年間 500円  |
| 3 | 保険期間 | 4月1日～翌年3月31日                                      |
| 4 | 保険金額 | 死亡・後遺傷害 21,350千円                                  |
|   |      | 入院保険金日額 8千円(180日限度)                               |
|   |      | 通院保険金日額 5千円(90日限度)                                |
|   |      | 死亡見舞金 500千円                                       |
| 5 | 保障範囲 | 複数の集落であっても現地での農作業従事中であれば保障されます。また自宅と現地間の移動も含まれます。 |

- 注) 1 保険期間が4月1日から3月31日であるため10月から加入されても有効期間は3月末までです。今年度活動される予定がなければ来年度4月からの加入をお勧めします。
- 2 加入手続きは最寄の市区郡町社会福祉協議会のボランティアセンターで行っています。加入申込書兼加入者名簿はボランティアセンターで貰って下さい。実際にはボランティア活動に参加される時に予め参加者名簿を地元の世話人にまとめてもらい、地区の社会福祉協議会で加入手続きをして貰うのがよいと思います。

### 【編集後記】

『ふるさと交流だより』第二号をお読みいただきありがとうございます。誠にありがとうございました。終わり、農作業等を行うには過ぎやすい季節になりました。これから、山の木々も色づき、食べ物も美味しい秋を迎えます。休日には、雑踏を抜け出して、農村部を訪れるには絶好の時期ですね。第二号発行にあたり、地域情報を提供いただいた地区の方々、御協力ありがとうございました。また会員の皆様からの活動報告や写真等もお待ちしています。